

生ごみの水切りモニター調査結果報告書

① 調査の概要

1 調査の目的

松阪市では一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の中で、発生抑制による減量目標値として、令和 8 年度（中間目標年度）の 1 人 1 日当たりごみ排出量を 822g/人・日と定めています。現状では令和 4 年度の実績値で 918g/人・日となっており目標値には及んでいません。

その為、ごみの減量が喫緊の課題となっています。その中でも、日々の生活に伴い、私達が出す家庭内からの「燃えるごみ」の中で生ごみの占める重量は約半分で、その生ごみの約 80%は水分といわれています。その水分を減らすことによって、ごみの収集運搬や焼却に費やすエネルギーを減らすことができます。

家庭から出る生ごみを減らす為に、生ごみの水切り用具を使い、その結果を記録する「生ごみの水切りモニター」を募集しました。

2 調査の方法

モニター募集期間

令和 5 年 7 月 11 日～24 日

募集人数

10 人

対象者

松阪市内在住者で計量→調査票に記録が可能な方

また、松阪市リサイクルセンターで受け取りいただける方

調査期間

受取日より 1 か月（内 10 日間で計量）

調査実施器具

kcud<クード>生ゴミ水切り器
（岩谷マテリアル株式会社）

応募人数

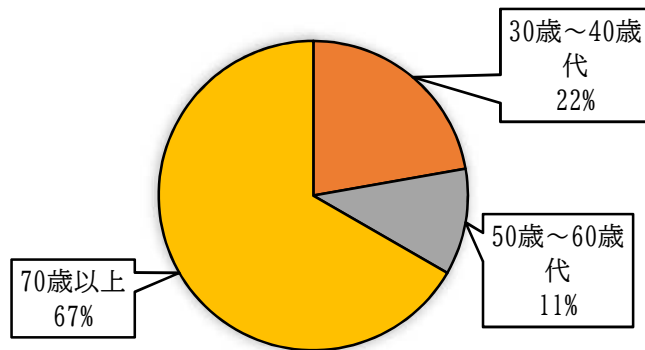
10 人



② 調査結果

1 基本情報

調査回答者 9 人（回収率 90%）

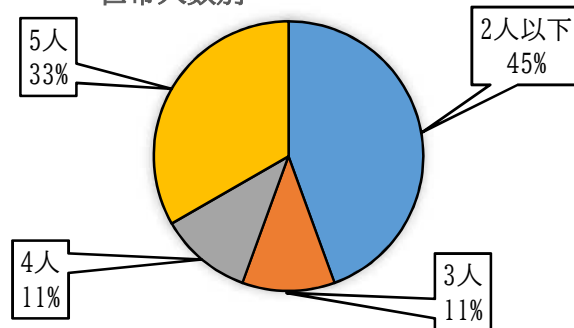


■20歳代以下 ■30歳～40歳代 ■50歳～60歳代 ■70歳以上

世帯構成員数 30 人

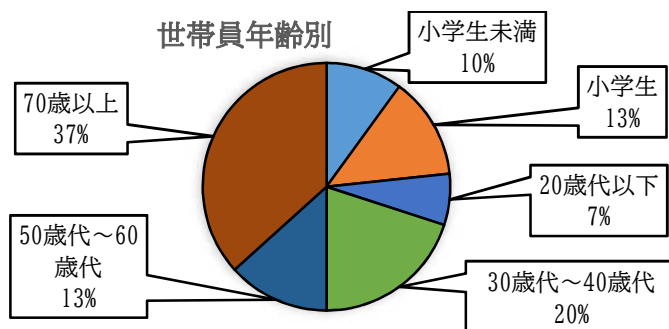
一世帯平均 3.3 人 最大 5 人 最小 2 人

世帯人数別



■2人以下 ■3人 ■4人 ■5人 ■6人以上

世帯員年齢別



■小学生未満 ■小学生 ■中学生 ■高校生
■20歳代以下 ■30歳代～40歳代 ■50歳代～60歳代 ■70歳以上

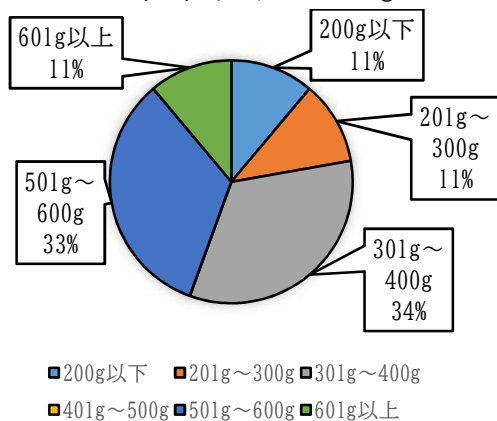
2 水切りモニター計量結果

水切り実施日数 延べ 87 日

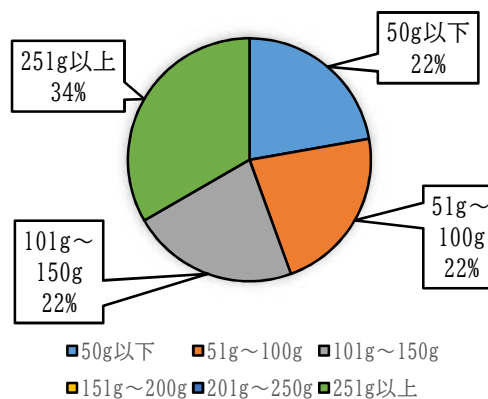
水切りした生ごみ量 総量 34,508g

1 日当たり

1 世帯平均 396.1g



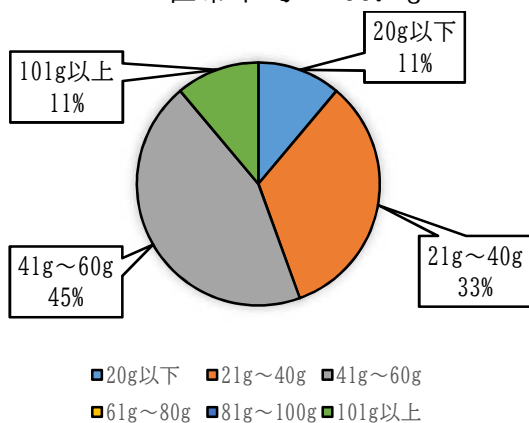
1 人平均 118.8g



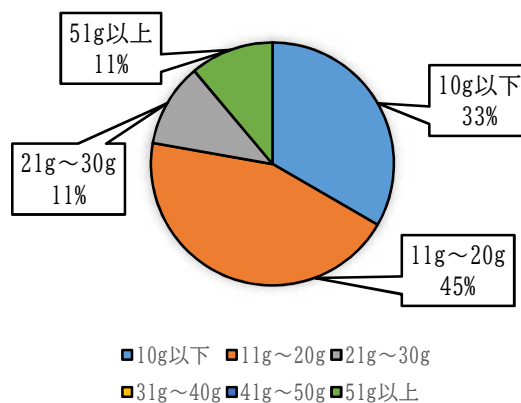
水切り後の減少量 総量 4,854g

1 日当たり

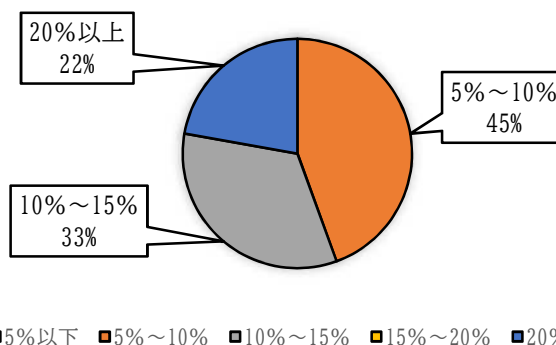
1 世帯平均 55.4g



1 人平均 16.6g

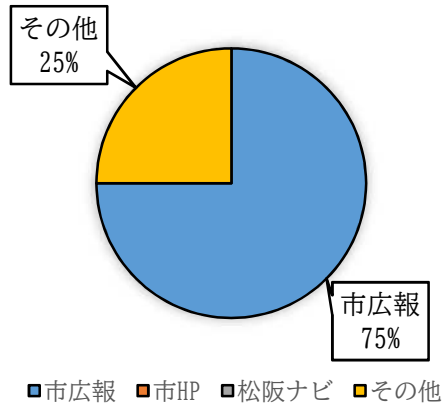


水切り後の減量割合
平均 14.1%



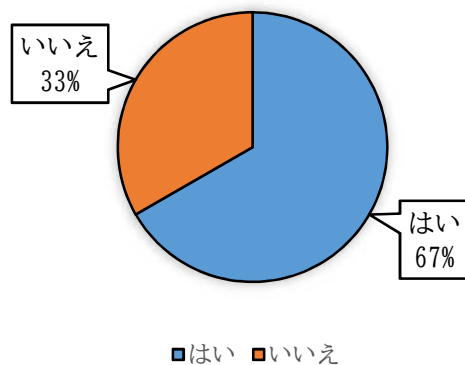
3 水切りモニターアンケート結果

○このモニター募集を何で知りましたか



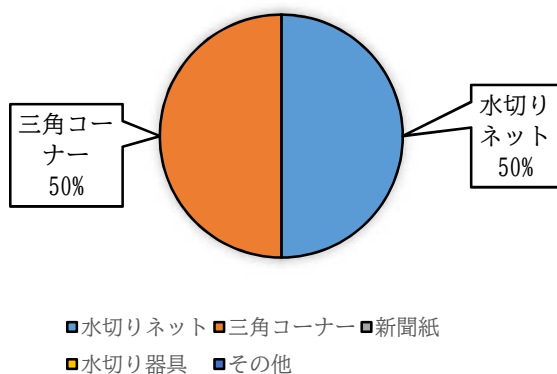
- ・モニター参加理由
水切り器具が欲しかった。
器具を使った水切りの結果を知りたかった。
地球環境負荷軽減活動のため。
生ごみ堆肥化プロジェクトを行っているため。

○モニターに参加する前、生ごみの水切りを行っていましたか



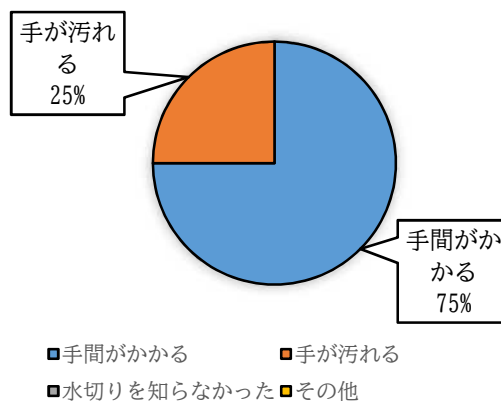
➡「はい」

どのような方法で水切りを行っていましたか（複数回答）



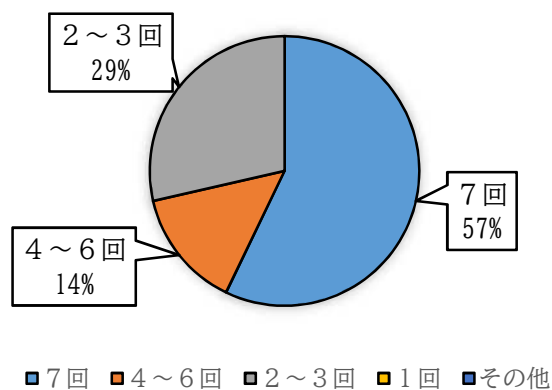
➡「いいえ」

水切りを行わなかった理由は何ですか（複数回答）

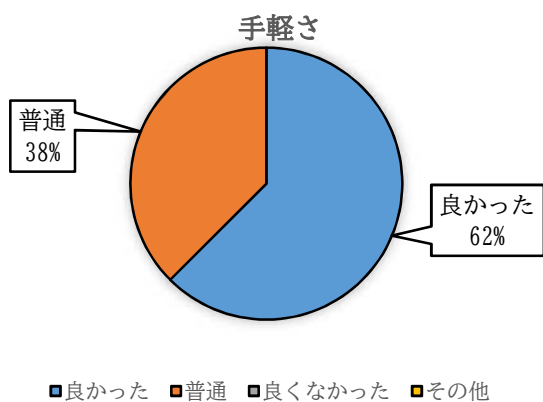
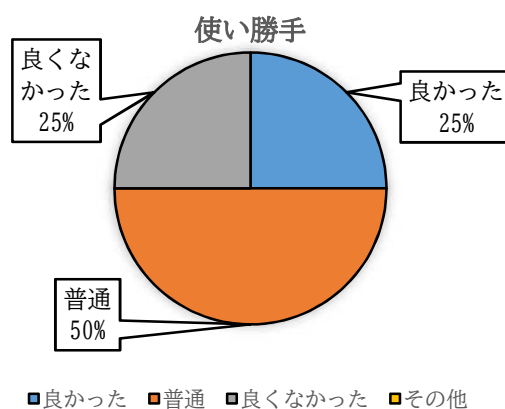
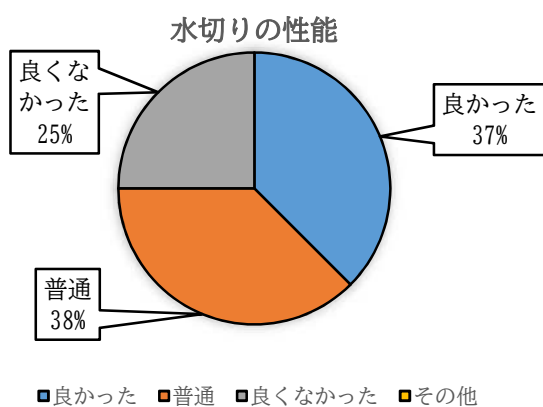


3 水切りモニターアンケート結果（続き）

○ 1週間のうち何回水切りをしましたか

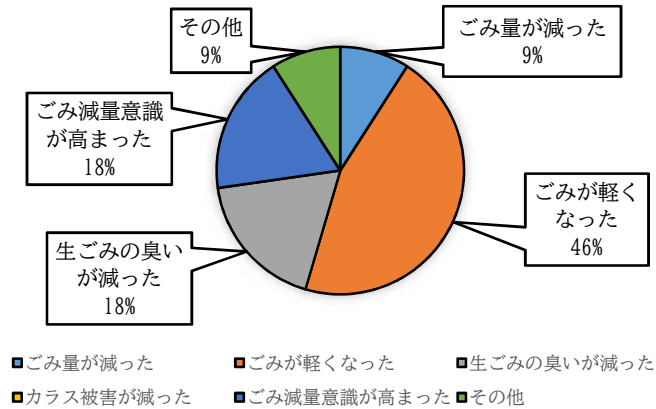


○ 生ゴミ水切り器を使ってみた感想をお聞かせください



3 水切りモニターアンケート結果（続き）

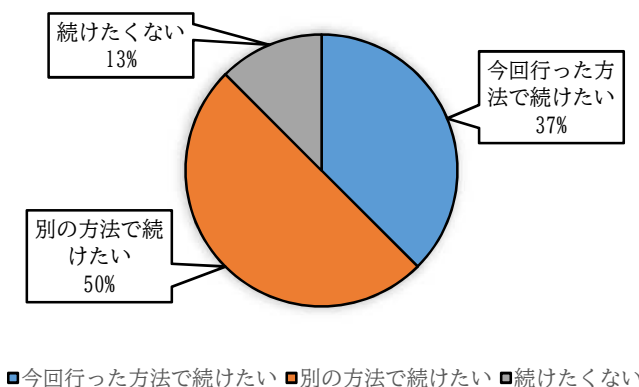
○生ごみ水切り器を使用して実感した効果はありますか（複数回答）



その他

今まで水切りネットを使用していたが、あまり変わりはない。

○今後も水切りを続けたいですか



水切りがしっかり出来ているからか、あまり匂わなかったので続けたい。
素手で抵抗なく水切りできるので別の方法で続けたい。
続けたくないが、料理によっては続けた方が良いと思う。

○モニターに参加した感想

計量が楽しかった。以外に抵抗なく水切りができた。水分がとれたのが良かった。
水切りがごみ減量につながるということが分かったのが良かった。

○生ごみの水切りやごみの減量に関するアイデア・意見

ごみ焼却に係る税金負担の意識づけることが大切だと思う。
水切りの大切さを伝えるリーフレットなどがあるといい。家庭から始めるために子供たちに知ってもらう機会があるとよい。
10年以上、地域で生ごみ堆肥を作っているグループに協力している。これからも続けていきたい。

③ 総括

モニター調査参加者中 90%が回答、80%が全 10 回の調査を完了し、内半数以上がほぼ毎日水切りを行ったと回答した。

アンケート調査からも、手軽さの評価が高かったことから続けやすい方法だと思われる。

水切りで減量した量について、回答者の生ごみ量の合計が約 35,000g、水切り量の合計が約 5,000g との報告となった。

生ごみ量から計算された水切り割合は約 14%となった。

令和 5 年度清掃事業概要より、松阪市の家庭系ごみの内燃えるごみは年間 33,684t、一人一日当たりの排出量は約 580g となる。

今回の調査で報告された一人一日当たりの生ごみ量は約 120g、おおよそ 2 割程度が水切りに回される結果になった。

今回の調査による一人一日当たりの水切り量は約 16.6g、松阪市の全員が実施した場合、年間約 1,000t のごみ減量効果が見込まれる。

これは家庭系ごみ内の燃えるごみの約 3%、松阪市の総ごみ量の約 2%に当たる。

器具の費用が 1,000 円程度で導入でき、継続するために重要な手軽さも高いため、生ごみ減量の入り口としての効果は認められると考えられる結果となった。